

大麻グミ事件から考える

2023年11月初め頃から「”大麻グミ”を食べて緊急搬送」というニュースが相次いで報道された。大麻に含まれるテトラヒドロカンナビノール(THC)は脳を刺激して快楽、幻覚、鎮静、抗不安、鎮痛などの作用を表すが、問題のグミには類似作用を持つとされる合成成分HHCHが含まれているという。日本の法律(大麻取締法)で規制されていないことで、製造販売者は堂々とその効果や合法性を表明していたが、11月22日に大麻取締法対象薬物に指定された。この種の薬物が健康上また社会安全上の悪影響を及ぼすことから、規制や利用者のケア、予防などの有効策を求めていくことは重要であるが、ここでは少し違う視点から考えて見たいと思う。

今回健康被害が出たのは”食品”としてのグミであった。日本の食品であれば必ず含有成分の表示が義務づけられている。新たに規制対象になったグミの袋にはHHCHを含むと書かれていたという。

このグミを食べるという場面を考えて見ると次のいずれかであろう。

- ①HHCHが含まれていることを知った上で購入または貰って食べた。この場合は”効果”を求めて確信的に使用している。
- ②HHCHが含まれていることを知った上で、好奇心から軽い気持ちで口にした。
- ③HHCHのことは知らずに、一般のグミとして口にした。

いずれのケースであれ、一旦身体に入ってしまう薬物としての作用や結果は同じである。①のケースが引き起こす自身の健康や社会への悪影響が問題となるが、②や③のケースでも最悪急性中毒や依存症などに繋がる。

ここで考えたいのは、大きく言えば生命・生存と危機管理、日常的な視点で言えば身の安全を守る知恵についてである。野生動物の世界では、彼らは餌を本能と教育によって選別しているであろう。人間においても、養育期間と要介護期間を除けば同じではないだろうか？ただ、野生動物と違うのは人が口にするものに「医薬品・薬物」が加わっていることであるが、本能と学習効果をフル活動して生命を守るための峻別するのが本来の姿かと思う。今このような能力や意識が弱まっていないだろうか。人間の知恵は食物や医薬品の安全性や効果の確保を可能にし、一般的には身の回りの安全性は保たれていると言える。しかし残念ながら世の中には不作為や悪意も存在することを忘れてはいけないと思う。今回の事件は、無意識や無批判にものを口に入れてはいけないことをしっかりと学び、五感を研ぎ澄まして身を守ることの大切さを改めて感じさせられた事件であった。

2023/11/22 戸田紘子